

清流の国ぎふ 防災・減災センター

令和元年度 防災活動大賞

令和元年 1 2 月

防災活動大賞 実施概要

【 募集期間 】

2019年10月10日（木）～12月9日（月）

【 応募対象 】

応募することのできる活動は、以下の（１）～（４）をすべて満たすこと。

- （１）岐阜県内で取り組んでいる活動であること。（頻度、回数は問わず）
- （２）活動する者は団体、個人や公共、私的を問わない。
- （３）活動結果が防災・減災に関する取り組み内容であること。（寄与のレベル、度合いや活動の難易度は問わず。間接的に防災・減災に関する取り組みであるケースも含む）
- （４）インターネットの利用や、電子メールでの連絡が可能なメンバーを最低一名確保できること。

【 公開選考会 】

- （１）応募作品（A0サイズカラー印刷ポスター）を会場にて掲示し、応募者1名が説明、質疑応答を実施。
- （２）選考は会場への来場者が3票の投票権を行使。（この3票の使い方は自由。今回の選考会では、選考会場に足を運んだ100名程の来場者が投票）
- （３）投票獲得数が最も多い応募作品を防災活動大賞として表彰。（今回の選考会では応募作品が多数のため、表彰数は3）
- （４）当日のタイムスケジュールは以下の通り

開催日：2019年12月21日(土)

会 場：ハートフルスクエアG 2階 大研修室（JR岐阜駅東）

14:00 開会挨拶

14:05 応募者自己紹介

14:30 公開選考

16:00 表彰式

16:15 閉会

【 選考結果 】

公開選考の結果、投票獲得数上位3位の作品(下記参照)を防災活動大賞として表彰。

(応募受付順に掲載)

NPO法人 防災士なかつがわ会

「減災対策はまちづくり（小中学生を対象とした防災教室）」

岐阜県立 岐山高等学校 防災リーダー

「岐山高校型考える防災「命を守る訓練」の工夫」

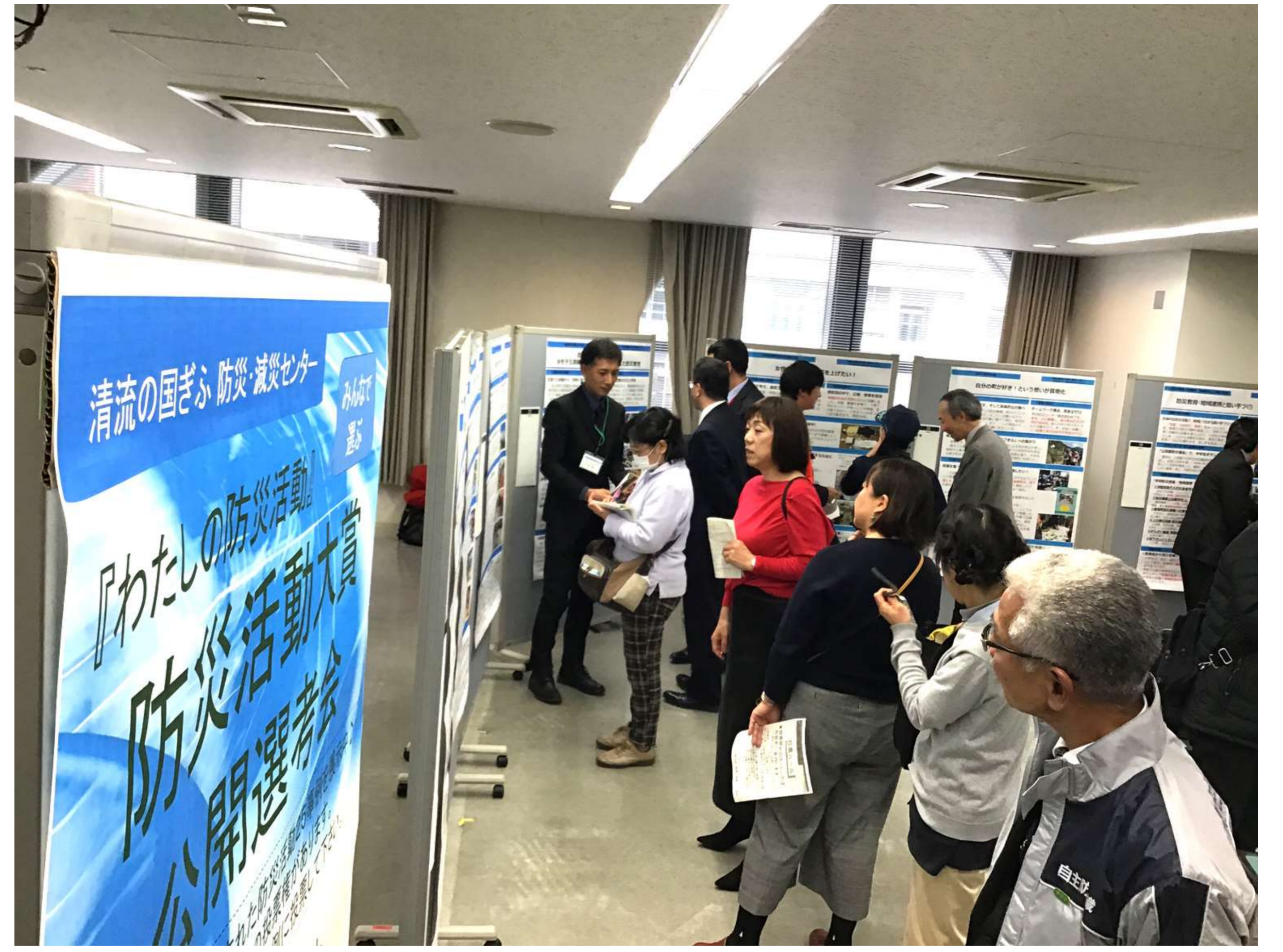
三輪南自治会連合会

「三輪南小学校防災学習 地域と共に」

【 当日の様子 】



開会式



公開選考の様子①



公開選考の様子②



公開選考の様子③



公開選考の様子④



応募者と来場者の皆さん
(前列中央3名は防災活動大賞受賞者代表)

【 応募作品一覧 】

団体	市町村	タイトル
岐阜市立岐阜小学校	岐阜市	4年生社会科「自然災害からくらしを守る」の実践
恵那東防災リーダー(D.P.L.)	恵那市	防災活動を核とした、地域コミュニティとの協働による地域社会人の育成
可児市防災の会	可児市	遊んでぼうさい!
金山第2区区民レスキュー隊	下呂市	金山第2区区民が共助で行うレスキュー活動
小熊新生防災会&小熊小学校	羽島市	地域と学校の協働活動 ～子供たちに引き継がれる自助共助の行動～
本荘まちづくり協議会	岐阜市	平常時の「きづな」は緊急時の「きずな線」
星和中学校避難所運営委員会	大垣市	「よりよい避難所作り」を目指した複数自治会が協力し合いながら防災訓練を継続する
大垣市興文地区防災士ネットワーク部会	大垣市	避難所運営に若い活力とアイデアを!
大垣市立北中学校	大垣市	「共助」の力を生かした防災力の高いまちづくり ～災害時に助ける側の中学生を目指して～
せき防災の会	関市	地区防災の必要性 裏方として伝える方法
伊自良地区スクールサポーターズ協議会 (学校運営協議会)	山県市	防災を通して、「自立し、社会に貢献する地域人」のあるべき姿を、子どもに伝えたい!
NPO法人 防災士なかつがわ会	中津川市	減災対策はまちづくり
関市立桜ヶ丘小学校PTA	関市	家庭地域参加日×桜っ子防災コラボ企画 「みんなDE防災体験」
羽島市立中島中学校	羽島市	避難所のリーダーになろう(中学生)
岐阜県立飛驒特別支援学校	高山市	命を守るための防災研究 ～地域との連携を通して～
岐阜県立 岐山高等学校 防災リーダー	岐阜市	岐山高校型考える防災「命を守る訓練」の工夫
クリエイティブ すがたほたる	下呂市	菅田地区 400世帯の安心・安全を目指して
山県市扇町自治会	山県市	地震への備え(家具の固定)をしよう
げんさい未来塾 大前雅紀 (御嵩町立上之郷中学校)	可児市	防災教育・地域連携と担い手づくり
かわべ防災の会	可児市	自分の町が好き!という想いが具現化
可児市消防団女性消防分団	可児市	女性へのAED装着率を上げたい!
岐阜市立鷺山小学校	岐阜市	防災意識の向上を目指した 命を守る訓練の充実と、地域と協力した防災教育
鶉自主防災訓練 防災鶉オッチ実行委員会	岐阜市	地域全員で学ぶ防災!強い街づくり!
安八町立結小学校	安八町	親子防災体験 3年目
三輪南自治会連合会	岐阜市	三輪南小学校防災学習 地域と共に

大賞作品

減災対策はまちづくり

【活動内容の特徴】

小・中学生を対象とした防災教室を実施しています。

- 小学生を対象とした「ジュニア防災教室」では、約4時間でさまざまなプログラムを体験しながら、防災について考えてもらう機会となっている。
- 一方、中学生を対象とした「防災教室」はひとつレベルアップし、「非常時には自分たちの学校が避難所になること」「地域が中学生に期待していること」などについて考えてもらう機会となっている。

【アピールしたい防災活動の成果】

近所に住む「家族以外の大人」とつながる。

- この防災教室は、地区社協や区長会、民生委員会、福祉推進員などの50名（地区により増減有り）を超える地域の大人たちの全面的な協力のもとで実施され、地域全体としての取り組みに発展している。
- また、子どもたちが「家族以外の大人」とつながる機会となり「地域の子どもは地域で守る」「自分も地域の一員として地域のためにできることがある」ということを考える機会となっている。

子どもから「家族防災会議」につなげる。

- 参加した子どもたちから「家族防災会議」につながり、地域との関わりが薄くなりがちな親世代に「地域とつながることが自分の子どもや家族のためになる」ということを考える機会となっている。

【活動内容の詳細】

- 小学生は、防災紙芝居やクイズ、割れガラス体験、救急救命体操、ドローンの実演、パッククッキング、段ボールでの避難所設営とそこでの家族防災会議など、地域の大人と一緒に楽しく体験してもらっている。
- 中学生は、地域を撮影したドローンからの映像をもとに地域の危険個所を確認したり、避難所でのトイレ事情などについて考えてもらっている。

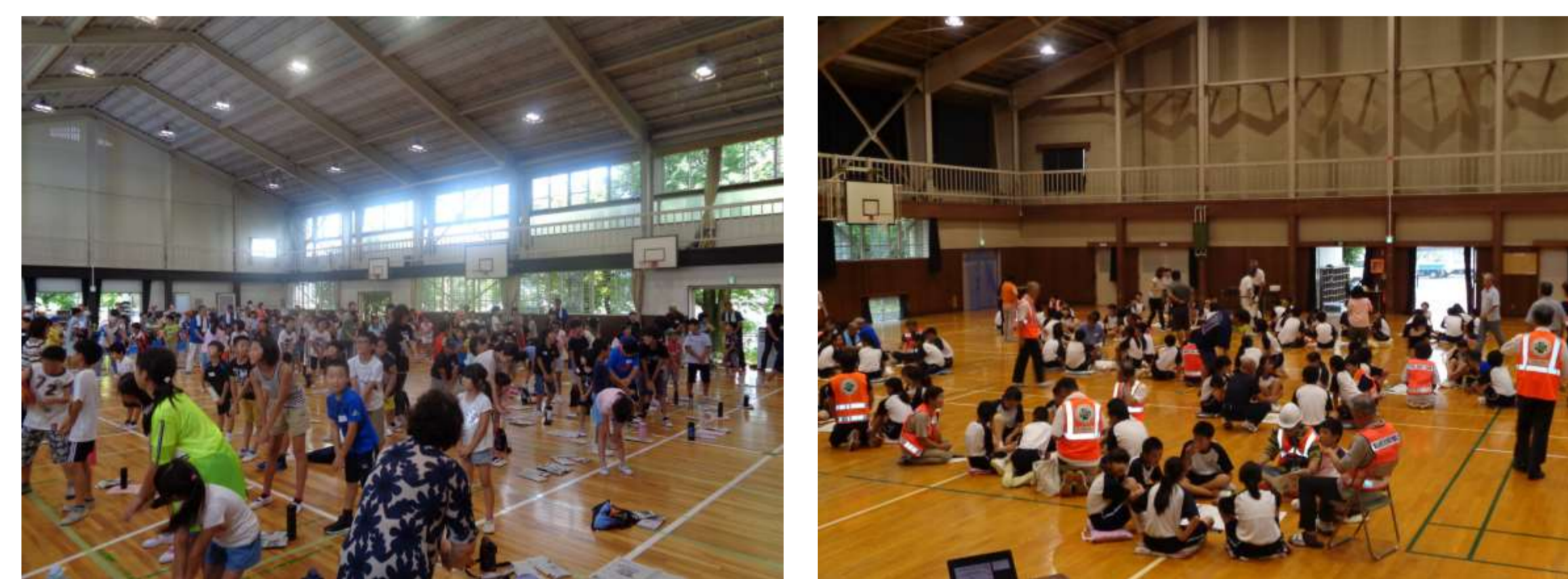
【活動成果】

<実施者から見た効果>

- 既に8年も継続している地区では、子どもたちの防災スキルは格段に向上、上級生が下級生を指導している。
- 参加した区長らが区に持ち帰り、防災訓練などで地域全体の防災意識を高める一助になっている。
- 防災・減災対策で重要な「ご近所づきあい」が結局は「まちづくり」につながることを皆が認識し始めている。
- 非常に評価が高く年々、実施回数が増加している。

【団体の紹介】

市、社協、警察署などの行政機関と連携を図りながら、防災体験フェスティバルや各種防災教室の開催・支援、防災紙芝居の作成、各種研修会への講師派遣など、市内全域において様々な活動を実施しています。今回もその流れの一環です。



<参加者等から見た効果>

- 「いかにして自分を守るのか」具体的な対策を知ることができた。
- 「非常時に家族以外に頼れる人がいる」ことを知ることができ安心した。
- 関係が薄れつつある地域とのつながりの必要性を再確認できた。

岐山高校型考える防災 「命を守る訓練」の工夫

【活動内容の特徴】

避難訓練だけでは命を守りきれない！

生徒防災リーダーが「命を守る訓練」を企画・実施していること。

避難訓練をするだけでなく「自分で考える・協働する・全員が主体的に参加できる」訓練を継続していること。

【アピールしたい防災活動の成果】

毎年向上する防災意識と実践力

毎年違ったテーマで考えて行動・協働する「命を守る訓練」を行っており、学年が上がるごとに防災意識と実践力が向上している。他校と比較しても、家庭での防災力が高いことを評価されている。（防災意識向上シート結果の比較より）



【活動内容の詳細】

今年度は全校生徒で「非常用トイレ」作っちゃいました！

防災意識向上シートの見直し 非常用トイレの項目がない！？

「非常用トイレ用意してますか？」を追加・実施

トイレに対して意識が低いことが判明…

具体的な「避難生活」について想像ができていない？

避難訓練・全校集会ってつままない？ 眠くならない訓練を作る

全員でトイレを作ったらわいわい楽しく訓練できるかも！

調べたら身近なもの（新聞紙・ビニール袋）で作れるとわかる

岐阜大学村岡治道先生のもとへ 地域のHUGにも参加

助言や体験を持ち帰り、話し合いを重ね方向が決まる

- ・トイレも食も水も含めて「避難生活について考える」訓練に
- ・クイズや意見交換、問いかけで「全員が参加」できる訓練に
- ・グループでトイレを作る＝「協働できる」訓練に

宿題「うちにはトイレいくつ要る？」と家族に聞く

学校での防災だけでなく、家庭での防災を考えてもらおう
来年度の防災意識向上シート結果に期待



【活動成果】

<実施者から見た効果>

参加者は、挙手をして発言をしてくれたり近くの人同士で意見交換を行ったりすることができていた。トイレづくりもそれぞれのグループで手順を確認しながら、作り上げることができていた。実施後多くの先生方や友達から「トイレは（防災活動の）盲点だった」と言ってもらえた。

<参加者等から見た効果>

1. 非常時のトイレについて考えようと思う内容でしたか？
全校生徒平均 **3.42**（4点満点）
2. 家族にも伝えたい内容でしたか？
全校生徒平均 **3.37**（4点満点）

実施後アンケート結果より

三輪南小学校防災学習 地域と共に

【活動内容の特徴】

地域と小学校が協働した防災訓練

三輪南地域防災訓練と三輪南小学校防災学習が連携のもと同時開催し（令和元年9月1日）、地域がより一体となった活動を実施することができ、いつもの防災カアップにつながった。

【団体の紹介】

三輪南自治会連合会と小学校

- ・三輪南自治会連合会
→58自治会で構成し、2,500戸強の会員が加入する自治組織。
- ・三輪南小学校
→地域児童が通う市立小学校。

【アピールしたい防災活動の成果】

世代を越えて地域における防災意識が醸成できた

自治会組織が主催する訓練と小学校が行う防災学習とが連携実施することで、大人世代だけでなく子供世代を含めた幅広い世代が一体となった防災意識が醸成できた。



【活動内容の詳細】

地域に暮らす様々な世代が協働した活動の実施

下記の活動がすべてメッシュ状に連携し、大人世代と子供世代がコミュニケーションを取りながら実施した。

○三輪南地域防災訓練内容

- ・情報伝達訓練、シェイクアウト訓練、安否確認訓練、避難訓練（一時避難、避難経路確認など）
- ・初期消火訓練、救護訓練、飲料水確保訓練、避難所運営訓練、炊き出し訓練、防災資器材取扱訓練

○三輪南小学校防災学習内容

- ・各学年に合わせた活動の実施（煙体験、防災ハウス体験、給食給水活動、救出救護支援、消防・水防訓練）
- ・上記活動のほか地区防災訓練に同時参加



【活動成果】

<実施者から見た効果>

- ・地域のより広い世代の住民に対する意識の醸成ができた。
- ・また活動を通して、住民のコミュニケーションの促進も図られ、地域の絆が深くなったと思われる。

<参加者等から見た効果>

- ・参加した子供が家庭で今回の活動を話題にし、地域防災活動を振り返ることとなった。
- ・今回の活動に参加し、各種団体間の連携も感じることができ、想像以上に多くの団体によって地域が支えられていることが実感できた。

応募作品

4年生社会科「自然災害からくらしを守る」の実践

【活動内容の特徴】

社会科授業における共に考え学び合う防災教育

長良川の水害に備える水防団や国交省河川事務所からコミュニティ・ティーチャーを招き、共に考え学び合う社会科授業の実践。子どもが社会とつながる実感を得ることができる体験的な学習活動。

【団体の紹介】

伝統を受け継ぐコミュニティ・スクール先進校

岐阜市中心部にある城下町と官公街を校区にもつ二つの伝統校が統合し、平成20年度に開校したコミュニティ・スクールの先進校。

【アピールしたい防災活動の成果】

10歳の子どもたちに芽生えた地域の一員としての自覚

地域の人々や関係機関が、自然災害に対して様々な対処や備えをしていることを理解するとともに、災害から人々を守る活動を捉えて働きを考えることができ、地域の一員としての自覚や社会参画への関心・意欲が高まった。



【活動内容の詳細】

自然災害の歴史や公助・共助を学び、自分たちの自助を探究！

- ・岐阜県では地震や洪水などの自然災害が起きていること、特に最近では長良川での水害が多いことを理解した。
- ・水害に備え、家庭では防災グッズの準備や避難場所の確認をし、学校には防災倉庫が設置されていることに気付いた。
- ・水害を防ぐために、国が水門や陸閘等、県が堤防等の整備をし、関係機関が協力して様々な対策を行っていることを認識した。
- ・貯留槽の設置、避難情報や防災訓練の企画・運営、水道の安定供給など、岐阜市の取組についての認識を深めた。
- ・水害から地域を守るための水防団や自治会の働きについて、その事実や意味を認識することができた。
- ・長良川の水害をはじめとする自然災害に対し、公助・共助・自助の働きや協力・連携の仕組みをまとめることができた。
- ・長良川の水害から命や生活を守るために、自分たちにできることを考えることができた。



【活動成果】

<実施者から見た効果>

この取組は「小学校社会科全国大会」で授業公開（提供）するとともに、国交省等主催の「防災教育こどもサミット」でも紹介され、今後の小学校における「防災教育」のモデルケースとして、多方面に寄与することにつながったものと思われる。

<参加者等から見た効果>

子どもたちが学習した資料や知識をもとに、『自分だったら…』『自分の家族では…』と、水害という社会事象を『自分のこと』として考えること、子どもが水防に関わる人の思いや願いを知って意味認識が深まっていく姿が、大変参考になりました。

（全国大会「授業参観の感想」より）

防災活動を核とした，地域コミュニティとの協働による地域社会人の育成

【活動内容の特徴】

防災活動を核とした地域社会人の育成

将来起こり得る南海トラフ地震等の災害に備え、中学生が防災リーダーとなって地域住民と共に協働で防災活動ができるよう、防災に関する知識・技能を身に付ける研修と訓練を重ねることで、地域社会人として活躍できる人材を育成している。

【アピールしたい防災活動の成果】

地域住民の防災意識を高めた，中学生防災リーダーの実践

9 / 1 (日) 恵那市防災訓練にて，実際の災害を想定した避難所設置運営訓練を実施した。各自治会長と中学生の防災リーダーが中心になり、中学生と避難者である地域住民と共に、校区3カ所で避難所を設置運営し、地域住民の防災意識と防災スキルを高めた。



【活動内容の詳細】

校区内の小中学校全てで，「避難所設置運営訓練」を実施

地域の防災組織『大井町自主防災隊』と協力し，中学生が地域の防災活動の一員として参加するようにしている。

中学生の防災リーダーたちが，防災士や市危機管理課職員から研修を受け，防災に対する知識や技術を学び，避難所となる「学校の実態(施設・設備の場所や状態等)」をよく知る中学生が主体となり，避難所の運営に積極的に携われるようにしている。

「自助」「共助」「公助」が実現できるよう，地域の防災組織と中学生の防災リーダーたちが綿密な打ち合わせや協議・演習を重ね，9 / 1の防災訓練を迎えた。

防災訓練当日には，中学校校区の3つの学校それぞれで避難所を設営し，受付をはじめ情報の集約，物資の要請や配給等の全体への指示，炊き出しや避難者の居場所の確保(簡易ベッドやパーテーションの設置)等の訓練を行った。

11 / 2 防災教育の日には，全校生徒が防災学習を行い，次年度に備えている。7名の中学生が防災士の資格を取得予定である。



【活動成果】

<実施者から見た効果>

防災リーダーをはじめ，日頃から災害が起こった時のことを想定し，被害を最小限に抑えるため必要なことを考える等，生徒の防災意識に高まりがみられた。

悪天候の時や天気予報の情報から，災害の心構えや準備について，放送で呼び掛ける生徒の姿が見られるようになった。

<参加者等から見た効果>

避難所運営の中心となって動く中学生の姿を見て，「中学生があれほど頑張るなら…」と，地域住民の防災意識を高めた。

今年度で2度目の実施となったが，自治会長をはじめ，多くの住民が防災訓練に参加するとともに，より主体的に避難所運営に携わろうとする姿が見られるようになった。

遊んでぼうさい！！

【活動内容の特徴】

子ども向けに防災・減災啓発

可児市防災の会オリジナルの子供向け防災ゲーム
つりぼり・ビンゴ・カルタ・すごろくを遊ぶながら出される質問に答えていく。内容が防災に特化しているので親子で会話しながら楽しく学習することができる。子供から親へ防災啓発運動が狙い。

【団体の紹介】

20名の会員で奮闘中

自治会向け・市民向けに防災啓発・減災に取り組んでいます。
子供向け防災ゲームが人気
3歳児から楽しめます。

【アピールしたい防災活動の成果】

ゲームの中でも「つりぼり」が一番人気！

ぼうさいこくたい2019@NAGOYAに防災ゲーム出展
屋外人気アトラクション 第1位に釣り堀ゲームが
選ばれました！ グッズを吊り上げる手軽さと楽しさが受けてます。スーパーアイテムは**ドラえもん!?**



【活動内容の詳細】

見て 聞いて 触って 親子で考える防災ゲーム

子供会、商業施設で、各自治会の祭り会場で・・・
多彩な場所で、子ども向け防災ゲームを実施

- 釣り堀** グッズを吊り上げ、使用用途を答えてもらう
- ビンゴ** 持ち出し品リストから9個選択。ビンゴを競う
- カルタ** 7並べのようにカルタに書かれた防災啓発を読みながら並べていくゲーム
- すごろく** ゲームを進めながら止まったところで、防災に関する問題が出る。
3択で答える。
解らないときは親子で相談可能

学びながら親子の会話も盛り上がっています



【活動成果】

<実施者から見た効果>

大人に啓発しても、なかなか実施にいたらない。しかし、ゲームを通じて子供に話をすると、『**パパ、うちはやってないね!**』この一言に親は弱い！『わかった。一緒にそろえてみよう!』と**啓発に一役かっている**と思う

<参加者等から見た効果>

子ども向けゲームではあるが、親から見て、そんなことも必要??と改めて見直す内容に**参加してよかった**とご意見を多数いただきます。

金山第2区区民が共助で行うレスキュー活動



【活動内容の特徴】

【団体の紹介】

金山第2区区民レスキュー隊

区民で立ち上げた区民レスキュー隊

「区民がレスキュー隊に変身」

令和元年6月に結成し、災害時の初動体制は公的機関を待たずに区民で対応。要救助や負傷者対応は金山第2区区民レスキュー隊が出動。

平成30年7月の豪雨災害により金山第2区は床上、床下浸水に見舞われた。阿寺断層が近くにあることから、あらゆる災害時に、区民レスキュー隊員と区民とが負傷者対応を行う組織で金山第2区区民からの選出で結成した。

【アピールしたい防災活動の成果】

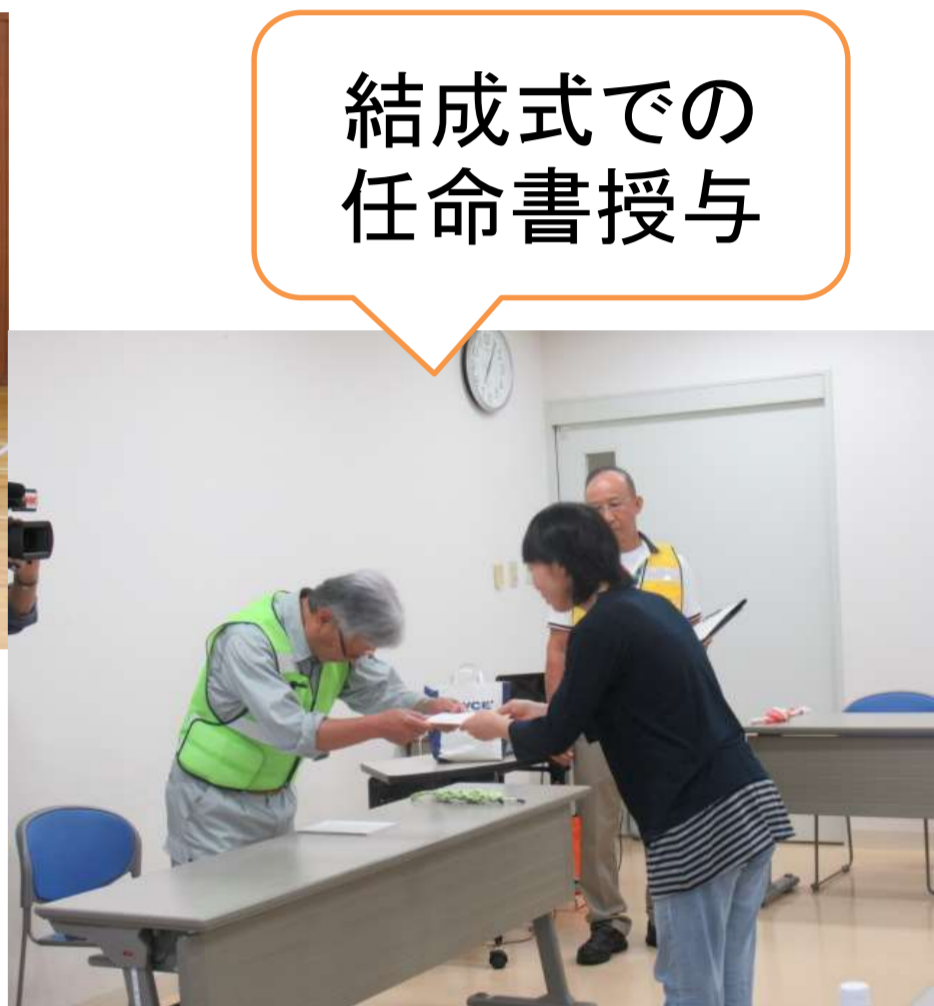
区民のための区民レスキュー隊結成

区民レスキュー隊は災害時に資機材や生活用品を使用しての救助技術、応急手当、搬送技術を取得し、区一丸となって献身している。

「下呂市総合防災訓練時に隊員（内女性4名）を区民に紹介」



区民に紹介



結成式での任命書授与

【活動内容の詳細】

災害から金山第2区の安全対応を担う組織

災害時、私達の下呂市金山町は主要道路が寸断し、陸の孤島となりうることを考え、公的機関を待つことなく、**共助**によって負傷者対応をスムーズに行う。また、これらの指導にあっては、消防職員OBにより、通常知ることの出来ない安全管理、救助技術、負傷者を安心させる対応の指導を受ける。訓練内容は、ロープワーク、救助技術、出血保護、骨折対応、負傷者搬送を行うが、専門的なレスキュー隊ではないことから、隊員によって、安全な救助判断基準を作成し対応するものとしている。また、資機材は生活用品等を使用し経費の負担も少ない。今後は各専門機関より指導を受け、高度な対応が行えることを目標とする。金山第2区区民レスキュー隊は隊長1名、副隊長2名（防災士）、隊員19名で編成している。



応急手当訓練



救助訓練

救助・応急手当資機材

生活用品での固定処置訓練



安全な現場対応勉強会



消防職員による安全管理講習会



【活動成果】

<実施者から見た効果>

区民レスキュー隊員となって、危険な行動や危険な場所にも対応することが苦痛でもあったが、安全管理や活動基準を自ら隊員によって作成することで、危険予知能力が向上し、訓練に活気ややる気が起こっている。まだ、結成して6か月ではあるが区民が共に助け合う意識が向上している。

<参加者等から見た効果>

区民レスキュー隊員としてロープワークに手感があったが日常でも使える指導を受け、楽しく技術を習得できた。また、負傷者に声掛けをすることにより安心感を与える事など知りえることが出来た。

女性としての気配り、優しさも救助活動には大切であることも知り得た。

地域と学校との協働活動

～子供たちに引き継がれる自助共助の行動～

【活動内容の特徴】

地域と学校が一体となって取り組む防災教育

小熊新生防災会が学校が主催する命を守りきる訓練に計画段階から関わり指導助言をし、児童に学習させる防災教育を継続的に実施。

羽島市での**学校防災教育のきっかけとなった活動**。

【団体の紹介】

自主防災会と公立小学校との協働

- ◆小熊新生防災会（会員数30名）
小熊コミュニティセンターに防災士で構成された自主防災会
- ◆羽島市立小熊小学校
（鵜飼校長、全校児童184名）

【アピールしたい防災活動の成果】

主体的に動き、経験や技能を次世代へ引き継いでいく

地域の大人から子供への防災教育と学校が協働し、生きる知恵を養い、積んだ経験や技能を次世代へ引き継いでいく。「大人から子供へそして次へ」という「流れ」が生まれた。

この流れが自助共助の行動で主体的に動く児童を育む。

【活動内容の詳細】

地域から子供へ、そして経験・技能の引き継ぎ

- ◆コミュニティスクールの一環として防災訓練、防災教育の企画の立案・実施・事後検証を協働し継続的に行う。

- ・ 防災会 **企** ⇒ 行動観察 ⇒ **事後**
- ・ 学校 **画** ⇒ 訓練実施 ⇒ **検証**

- ◆学校行事：**カレー祭り**（ディ・キャンプに**隠し課題**を配置）

例）薪が足りない、お皿がない、火をつけるものがない・・・

訓練や学習の取り組み

訓練時間や場所の工夫 ↓ 例)教員が近くにいない タイミングでの実施	行動観察 ↓ 児童教員自身の行動 や周りに対する行動	体験学習 ↓ 液状化実験や校内 に潜む危険の推察
---	-------------------------------------	-----------------------------------

■訓練や学習を通しての効果■

縦割りグループで
打開する策を検討

協議による課題解決

得た知識や経験を
高学年から低学年へ

伝える仕組みを養う

知恵や技能を災害
時に活用していく

自助共助の共同訓練

年長者から年少者への伝達、自らが考え動く意識



【活動成果】

<実施者から見た効果>

- ・ 防災会の顔を見たら地震や災害の時に取るべき行動の話を思い出すという児童もあり、身近な大人からの指導や助言は子供たちに受け入れやすく、質問や発言も活発に行われ防災意識の啓発に良い。
- ・ 子供たちが自発的に考え行動する意識、それを伝える行動へと成長している。

<参加者等から見た効果>

- ・ 地域の大人たちが防災に関する情報の提供者となるので、馴染みやすい。
- ・ 高学年が低学年の児童に対してとるべき行動の指導や助言を行いながら一緒に命を守る行動に自主的に移る、児童のこうした行動が自助共助の今後の在り方に大きく影響を与えるものと考えられる。

平常時の「きづな」は緊急時の「きずな線」

【活動内容の特徴】

「発想は柔軟に」

「防災」に特化した活動ではなく、あらゆる地域活動の中で、希薄化していた【人の繋がり】をいざという時互いに声かけあえる関係に。を目標に年齢性別問わず参加できる企画を年間通して考え実施している。

【アピールしたい防災活動の成果】

「強制せず共生できるつながりづくり」

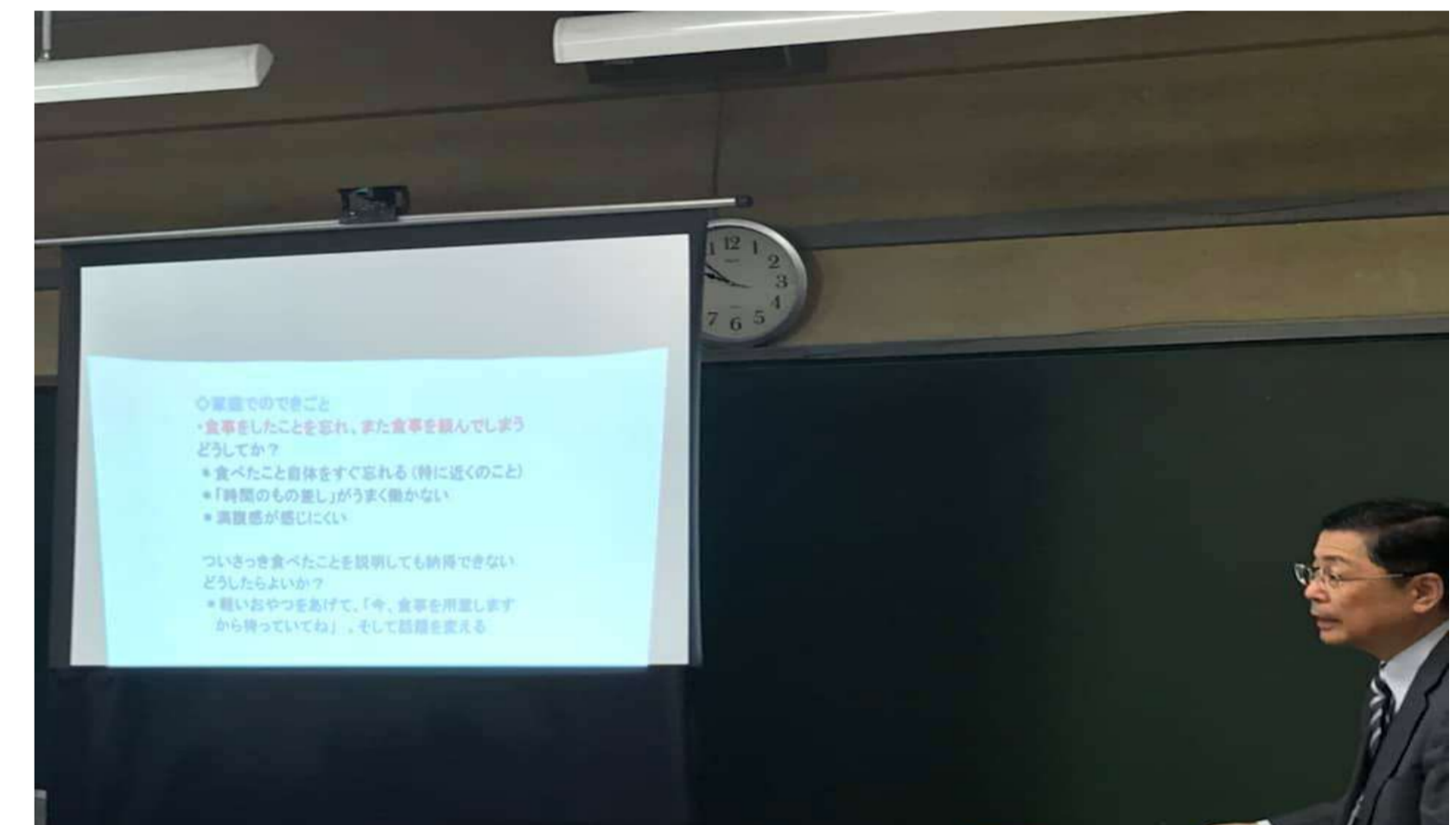
地域の大人が経験や体験した災害について、子ども達に伝えたい! との声から企画された研修会。水の大切さ = 給水車、電気の大切さ = 中部電力高圧発電機車/プリウスPhv等災害地の映像でしか見えていない車両にもご協力いただきより実践型のお話を伺いました。



【活動内容の詳細】

「私はここにいます」

- ①避難所は、普段接することのない認知症の方も一緒の生活空間になる。その時、寄り添うことの大切さを実践でき、支えてくれる有望な支援者となる。認知症講座を毎年4年生が受講「認知症サポーター」として、育てている。講師協力：岐阜市民病院
- ②毎月6回サロンを実施している。5回は開催会場は固定しているが、1ヶ所は地域内の喫茶店等にご協力いただき家から300mを基本に歩いてご近所さんと参加できる会場として、地区内を移動して開催している。歩行困難な方を支えて参加される方もある。互いの思い遣りを繋ぐ場となっている
- ③10月12日の公民館避難所で、間仕切り作成。まちの電気屋さんから、冷蔵庫の空箱届く⇒消防団がパトロールの途中に立ち寄り、組み立て設置 実にスムーズな繋がりと流れです。(写真下段右)
 - ・災害時に避難者カードを慌てて書くより平常時に情報を預かりQRコードで管理。平常時のサロン等で活用法を学んでいただく。素早い対応のためにも。(写真下段左)



【活動成果】

<実施者から見た効果>

- 声を上げ指示を出すのではなく、その企画にどう参加できるかを個々のスタッフが、気づき⇒考え⇒行動する体制がうまく可動出来る地域となってきた。
- 個々の活動企画ではなく、すべてにおいて関連付けて実施していくことで効果が見えてくるようです。

<参加者等から見た効果>

- 楽しい。終わってみるとちゃんと研修に参加していたのだと気づきます。
- 無理なく参加し、おしゃべりできることで仲間ができました。
- カレンダーに丸を付け、参加する日を忘れないようにしています。
- マンネリ化しないといいですね。

「よりよい避難所作り」を目指した複数自治会が 協力し合いながら防災訓練を継続する

【活動内容の特徴】

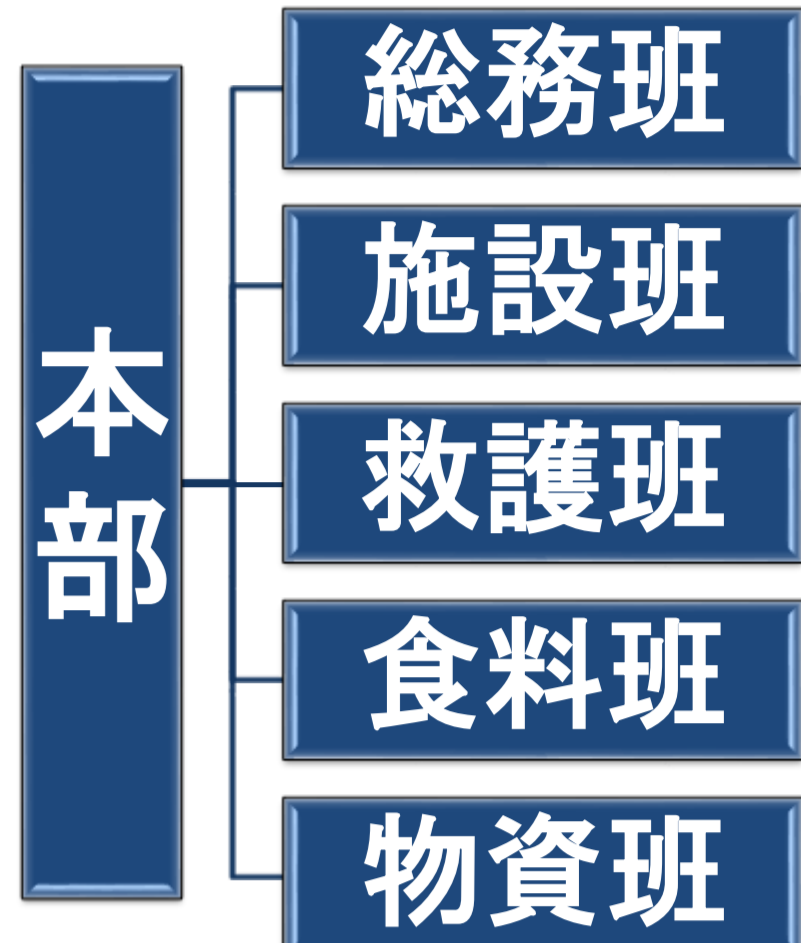
複数自治会で避難所運営規約を作り実践している。

「災害が起きてから考えればよい」を今から協力し合えば、災害時の地域住民の不安が減る。星和中学校の近隣複数自治会の防災活動はバラバラだったが、複数自治会が協力し合うという体制を取り、それを強化することで、災害時の住民の不安を解消できる。

【団体の紹介】

星和中学校避難所運営委員会

自治会の役員および防災士、民生児童委員、女性防火クラブなどで**組織規約をつくった**。
各班メンバーは**男性2名以上2名女性以上**とする。



【防災活動の成果】

2017年から3年間活動中

意識の変化

「避難すればよい」から避難した場合の「より良い環境作り」へ
「役員任せ」から「自分事」へ



【活動内容】

きっかけ

防災士が「一緒に訓練したい」と話し合った事から始まった。

2017年 はじまり

星和中学校避難所運営準備委員会を3町で発足させる。

単一自治会で訓練しているのに、合同訓練は必要かの声がある中、住民に避難所の運営も、避難所に入る人も単一自治会だけではない事を理解してもらい実施。

2018年

参加自治会が3から4になる。

中学校と話し合い、訓練に使用しない場所を決める。

2019年

星和中学校避難所運営準備委員会から星和中学校避難所運営委員会となる。

委員会は本部、総務、施設、救護、食料、施設の6班からなる。

各班男性2名、女性2名以上で構成する

各班はやってみたい防災訓練を計画、実施する。

2020年（予定）

4自治会から5自治会になる



【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

回数を重ねるたびに、各自治会で顔の見える関係が育ち、意見をしっかりと言い合える関係になった。

運営を体験することで、出来ないことが多くあり繰り返し訓練が必要だと知った。

＜参加者等から見た効果＞

町内外の人と訓練を通してコミュニケーションを取れた。

近所の要配慮の人に声を掛ける必要性を知った。

16 初体験の訓練もあり参加する意義を感じた。

避難所運営に若い活力とアイデアを！

【活動内容の特徴】

中学生を避難者とするリアルHUG

市の避難所運営基本マニュアルに準じて、中学生が架空の自治会の住人として避難所に避難し、自治会役員による運営委員とともに避難所の活動に携わるという想定で、避難所運営への理解を深める。

【団体の紹介】

興文地区における防災の牽引役

大垣市興文小学校区（54自治会）の防災士27人（平均年齢72歳）で構成。地元中学校などを巻き込んだ防災訓練など年1回実施。

【アピールしたい防災活動の成果】

避難所運営に若い意見を反映する素地作り

中学生が、避難所について理解し、主体的に避難所運営に関わりたいという意識が生じた。運営側である自治会役員にとっても、中学生が頼もしい存在であることがわかり、若い意見（アイデア）を反映した、誰にとっても優しい避難所を作る素地作りができた。



【活動内容の詳細】

連合自治会と中学校のコラボ防災訓練（令和元年11月2日実施）

興文地区連合自治会主催の防災訓練として実施
参加175名：自治会長、防災担当者 35名
中学3年生122名、防災士、消防団

【実施内容】

- 避難所として開設する際の手順の確認
- 中学生を避難者とした避難所への受け入れ
12自治会122人（要配慮者役を含む）
- 避難所における一人当たりのスペース（1m×2m）の体感
- 避難所運営活動班ごとの活動
 - 総務班）避難所レイアウトの検討、生活ルール作り、名簿の整理
 - 食料班）炊き出し用の大釜組立、備蓄品の確認、携帯おにぎり調理
 - 衛生班）簡易トイレ組立、段ボールトイレ作り、ペット飼育ルール（各班とも、中学生と自治会役員との混成）
- レイアウトやルールなどの検討結果の発表



【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

- 避難所運営基本マニュアルに準じて活動することで、運営側である自治会役員側の理解が深まるとともに、マニュアルの検証にもなった。
- 中学生と自治会役員とが一緒に活動することで、相互理解ができた。

＜参加者等から見た効果＞

- 避難所というものの具体的なイメージがわいた。自宅の備えの見直しをしたいという意見も。
- 中学生は、地域の方が優しく接してくれたことに、自治会役員は、中学生の熱心な姿勢に感動するなど、地域交流の場となった。

「共助」の力を生かした防災力の高いまちづくり

～災害時に**助ける側**の中学生を目指して～

【特徴】

災害時には「**助ける側の中学生**」に

「ふるさと大垣科」の学習で、「災害が起きたとき、助けられる側の中学生から助ける側の中学生に」を合言葉に、地域防災について考え、HUGやDIGを学んだ。その後、55名(43.7%)が「大垣市ジュニア防災養成講座」に申し込み、47名(37.3%)がジュニア防災士の認定を受けた。

【団体の紹介】

大垣市立北中学校

大垣駅の北側に位置する一小一中の中学校。生徒数350名。生徒会が「北辰の誇り」(「あいさつ」「掃除」「合唱」「聴く・語る」)を大切に生活している。

【アピールしたい成果】

「水の都おおがきジュニア防災士」**47名**認定！

昨年度、総合防災訓練にボランティアとして参加した先輩が、大垣市の「ふるさと夢会議」で「市としてジュニア防災士養成講座を開催してほしい」ことを提案した。

今年度、防災について学んだ希望者が、市初開催の「ジュニア防災士養成講座」を受講し、連合自治会や防災士会と連携して総合防災訓練のスタッフとして参加した。



【活動内容】

◇**災害図上訓練(DIG)**で、我が家の避難経路を確認！

学習プリントに自宅の間取りを書き込み、地震発生時を想定して、危険箇所を見つけた。家の中でも、棚が倒れてきたり、ガラスが割れたりして、避難が難しくなることを理解することができた。日頃から耐震補強などの対策をとることが重要であることを学んだ。

◇**避難所運営ゲーム(HUG)**で、避難所運営を疑似体験！

グループごとにHUGを行った。避難所運営の疑似体験を通して、様々な事情を抱えた人が避難をしていくこと、想定していない出来事が起こることなどが分かった。災害が起こる前に、部屋割りなど想定しておくこと、自分たち中学生が積極的に運営の手伝いをすることが重要であることを学んだ。

◇**ジュニア防災士にチャレンジ！**

大垣市主催「水の都おおがきジュニア防災士養成講座」に55名が申し込み、47名が受講した。大学教授の講話を聴いたり、クロスロード(災害時に起こりうる状況を想定し、判断する学習)やDIGを行ったりした。

◇**ジュニア防災士が総合防災訓練に参加！**

ジュニア防災士として認定された47名中36名が総合防災訓練のスタッフとして参加し、地域の方が避難してくる小学校・中学校・地区センター・大垣徳洲会病院の4ヶ所に分かれて活動した。



【活動成果】

<生徒の感想>

「ふるさと大垣科」の学習で、実際には体験できない災害時を疑似体験し、「**助ける側の中学生になりたい**」と実感できた。この経験から多くの中学生が「**ジュニア防災士になろう**」と考えて講座を受け、総合防災訓練にも参加して、地域のために活躍することができた。

<教師・地域から見た効果>

中学生は「助けるべき子ども」ではなく、可能性を秘めた「**共に動くことができる地域の一員**」であるということ認識することができた。

<地域の方からのメール(一部抜粋)>「**北辰魂に感激**」

避難場所の体育館の入り口付近で、靴を脱ぐところで支えが必要だったところ、中学生の子が靴を脱ぐのを助け、袋に入れてくれた。(中略)2階では床に座るようになっていたので、椅子を依頼したら、そばにいた中学生が椅子をもって来てくれ、5、6人の人たちが座ることができた。学生諸君 ありがとう 感謝 じじより

地区防災の必要性 裏方として伝える方法

【活動内容の特徴】

会の存在をアピールします

災害に対して **事前に防災の備えをしておく事を啓発している会**であるということを知っていただく必要があります。活動DVDを作り依頼先で流す。どんな方法があるのか常にアンテナを高くして良いと思うことがあればやってみます。

【アピールしたい防災活動の成果】

体験して初めてわかる防災の備え

私達は、見て、聞いて、体験していただく講話活動です。主に地震について。断水時のトイレ対応について。

空腹は我慢できるがトイレはがまんできない！

※凝固剤を使用する方法を伝えています。



【活動内容の詳細】

見直され出した 防災意識

◆平成30年度 **生涯学習課から成人学校講座**の依頼で月2回、8回の講座を行う。毎回、専門分野の講師を依頼。司会進行、記録撮り、その他手落ちの無いよう準備・準備。

◆**関市市民活動助成金事業 現在開催中**。“身近な暮らしの備え”を学び、地区防災活動に役立つ HUG /DIGを体験して必要な対策や準備などに生かして頂く為、令和元年5月1日～令和2年3月1日まで開催。講師：伊藤三枝子先生。チラシを作成し、学習情報館・商工会議所など人の集まる場所にチラシ配布。新聞社・テレビ局に情報提供。3社から取材あり。

◆小学校企画「防災を親子で学ぶ」。**せき防災の会は 体験で協力する。700人以上に対応の為 各地区の防災士に呼び掛ける**。事前準備（担架用の毛布集めと竹を用意）打合せ（各教室で同時に行うシュミレーションを学んでいただく）など行う。トイレについては、長谷川高士氏に手ほどきをしていただく。当日は、確認事項の周知、記録収集など（ベストはこの日の為に準備する）



【活動成果】

<実施者から見た効果>

地道な活動が広まって、皆さんの防災意識が変化してきた事を感じる。以下、事例。

○地震の備えで「家庭内DIG」を学んだ方が家族に話し、寝室の筆筒を移動してもらった。
○子供が家を建てるのでハザードマップで調べてみた。

<参加者等から見た効果>

アンケートから

救命講座：とても為になる。**地震の備え**：知らない事ばかりだった。事前の備えが大事だ。**DIG**：私の地域の地図でやってみたい（この時は関市の地図を使用）。**HUG**：初めて体験した。地域や校区でやるのが絶対必要だ。

防災を通して、「自立し、社会に貢献する地域人」のあるべき姿を、子どもに伝えたい！

【活動内容の特徴】

まずは、地域の大人が防災の知識を高めよう！

「自立し、社会に貢献する地域人」と、地域の子どもたちにも胸を張りたいとの願いのもと、**行政に働きかけてHUG講習会を計画し、自ら学ぶ機会を設けた**。防災について、**地域の願いと学校の活動をつなぐ「かすがい」となる活動**を行っている。

【アピールしたい防災活動の成果】

地域－学校の願い『地域の大人と子どもの防災意識を育てる』

★**地域と学校の願いを調和させる。「またやってみよう！」の意識へ！**
地域の願い…HUG講習会を通して**地域の関係者自らが行政（市）に働きかけ、市民自らの手で防災に取り組む。**
学校の願い…**地域と情報を共有し、地域での共助・自助への意識向上**



【活動内容の詳細】

「HUG研修会をやりましょう！」 学校運営協議会からの声から広がる防災学習

＊平成30年10月 山県市総合防災訓練を伊自良地区で開催
小学生から大人まで参加。**地域防災の重要性を実感！**



【地域を動かす、学校運営協議会】

- ＊平成31年2月「**地域の大人が学ぶ機会を作ろう**」学校運営協議会
自治会長や民生委員、学校職員、市役所職員がともに学ぶ機会を、**地域から積極的に提案！**
- ＊令和元年7月31日 「HUG講習会」開催 清流の国ぎふ防災・減災センター 西田先生
 - ①**市の指定避難所の伊自良中央公民館**に地域の大人が集まり、**避難所運営の基本**を習得
 - ②HUGを通して、**押し寄せる避難者への場所の指示等、避難所の運営の難しさ**を実感
 - ③様々な立場の方との**意見の調整力や速く的確な指示の必要性**を実感

【自立した地域人を育てる、防災学習】

- ＊令和元年10月～11月 各校で**防災について学ぶ**
 伊自良南小学校：**災害時に自分の命を守る行動**について考える。
 伊自良北小学校：**校区の危険箇所や災害時の身の守り方**について考える。
 伊自良中学校：**防災情報の活用や雷など急な気象の変化への対処方法**を考える。



【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

- **自立した地域人、貢献できる地域人としての姿が具体的**になった。
- **「自助」「共助」の意識が高まる、山県市で初めてのモデルケース**となった。
- **地域と学校をつなぐ**運営ができ、**「次はDIG！」**という意見が出た。

避難所運営指導者養成講座 (HUG講習会)を開催



7月31日、伊自良中央公民館で、市伊自良地区スクールサポーターズ協議会が主催する「避難所運営指導者養成講座」を開催した。この講座は、避難所運営の重要性を認識し、避難所運営の難しさを実感し、地域と学校をつなぐ運営ができるよう取り組むことを目指している。



＜参加者等から見た効果＞

- **避難所運営の難しさがわかった**。とっさの時に役立つので、**何度も経験したい**。
- **地域と行政が協力して開催できた**。
- **HUGを生かし、体育館に避難した想定**の学習で、**壁面を通路とした訓練**ができた。
- **地域と学校の考えを知るきっかけ**になった。
- **子どもの活躍が期待できる**とわかった。

家庭地域参加日×桜っ子防災コラボ企画

「みんな D E 防災体験」

【活動内容の特徴】

桜っ子の命を家庭、地域、学校で守りきります。

地域の大切な宝である「桜っ子」が「自分の命を守る行動」を身に付けるように家庭、地域、学校が連携し協力します。

具体的な体験を通して、桜っ子、保護者、地域の方、先生が「自分の命を守る行動」を体得します。

【団体の紹介】

「桜っ子」の成長を願っています。 関市立桜ヶ丘小学校PTAは、スローガン「広げよう 元気で楽しい地域の輪～育てよう 心も体も健康な桜っ子～」を目指して活動しています。

【アピールしたい防災活動の成果】

すべてが桜っ子の命を守ることにつながる活動だと実感

地域の宝である「桜っ子」を中心にして、保護者、地域の方、防災士の方が、**防災を考える時間**を共有し、**いざという時に顔が分かる関係づくり**の活動となりました。また、多くの方が桜っ子の命を守るために**知恵と力を結集**してくださいました。



【活動内容の詳細】

専門家による分かりやすい講演・目的を明確にした体験活動

1 専門家による分かりやすい講演

- 講師 岐阜大学 地域減災研究センター 村岡治道氏
- 実際の映像等の視聴、図上演習（家庭内DIY）が効果的に位置付けられた講演

2 全員参加で、目的を明確にした体験活動

- 通学班ごとに、安全を確保できる場所で、登校中にシェイクアウト訓練
- 断水に備え簡易トイレの設置、凝固剤の使い方を実験、体験
- 緊急車両が来ない場合、身近な物で簡易担架の作り方を体験

3 桜っ子、保護者、地域の方、先生がみんなて聴講、みんなて体験

- 桜っ子の家の近所の方（自治会長さんなど）と一緒に活動
- 毎日登校するグループで保護者とともに活動
- いざという時に**顔が分かる関係づくり**の場としての活動
- 総勢約800名が活動（児童370名・成人430名）



【活動成果】

<実施者から見た効果>

- 「家庭内DIY」を一斉に実施し、保護者に**子どもを守る切実感**が共有できた。
- 桜っ子を中心に、保護者、地域の方、防災士の方が、**防災を考える時間**が共有できた。
- 桜っ子を中心に、**いざという時に顔が分かる関係づくり**の場となった。

<参加者等から見た効果>

- 大地震が起きると、**自宅内がいかに危険か**「家庭内DIY」で実感。
- 実際の通学路で子どものシェイクアウト訓練を参観し**子どもの様子がより分かった**。
- 防災士さんと一緒に簡易トイレ・簡易担架の体験ができ**子どもの印象に強く残った**。
- 地域の自治会長さんとより親しくなれた。

避難所のリーダーになろう (中学生)

【活動内容の特徴】

避難所で生かせる力をつける

先生の指示に従って避難するだけの立場から、自分の命を守るだけでなく、自分で考え、自らの力・長所・個性やある物を自分で考えて生かし、自分以外の人の支えになろうとする意識となれる力をつける。

【アピールしたい防災活動の成果】

被災者から支援者・リーダーに

- ・身の回りで起きうる地震・水害と自分の命を守る方法を知る。
- ・避難所の備蓄物品とその利用についての概要を学ぶ。
- ・身の回り、特に校内で災害時使えるもの・できることを考える。
- ・地域の人々・団体とのつながりを深める。

【団体の紹介】

羽島市立中島中学校

生徒はボランティア精神が極めて高く、校内外のボランティア活動に多数参加している。

地域も安定しており、学校に大変協力的である。



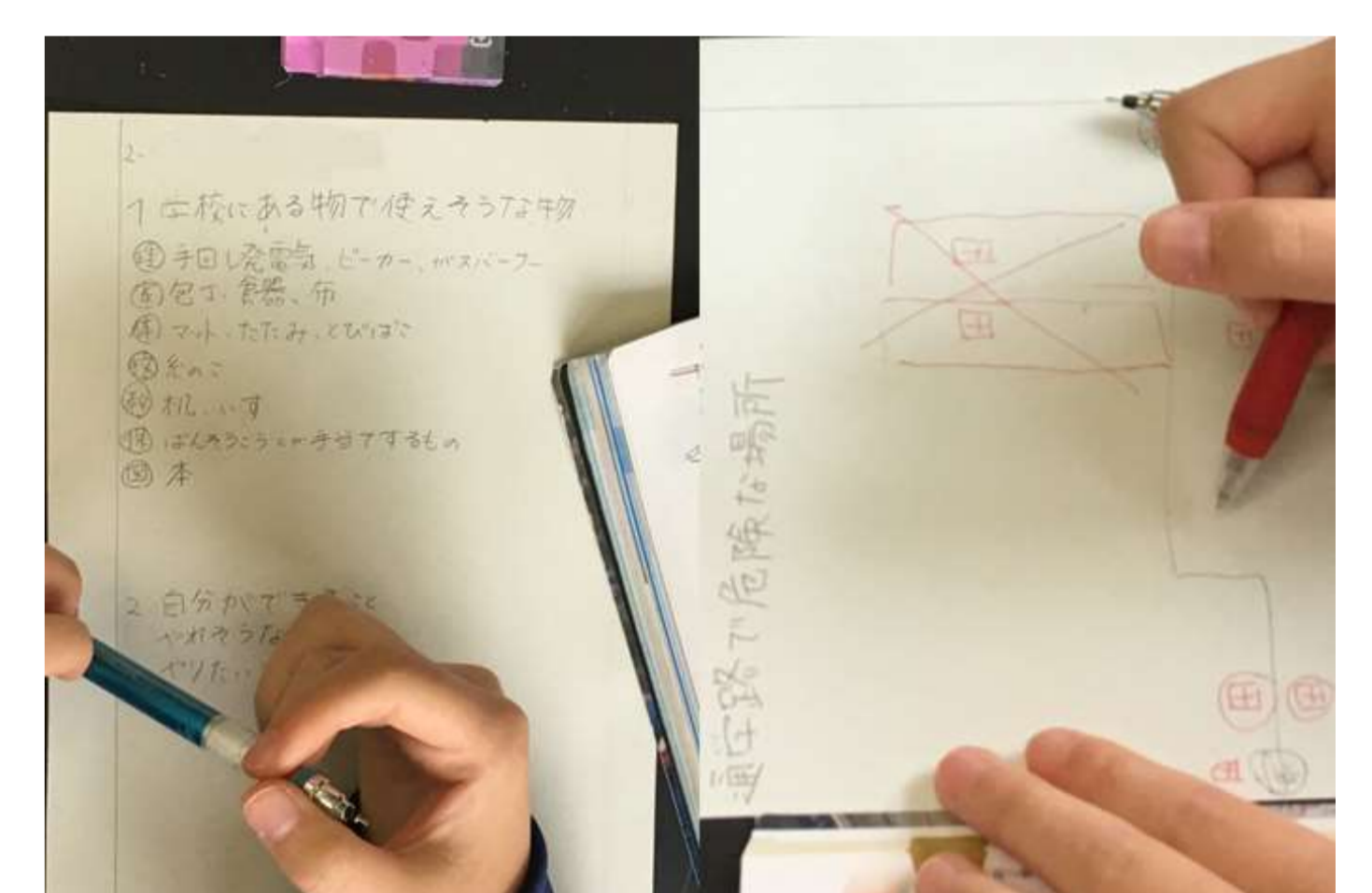
【活動内容の詳細】

災害を「知る」・自分が「できる」・自分から「動ける」

＜3年計画の策定・実践＞ 1年目の本年度は「知る」

1年目：知る、2年目：できる 3年目：動ける

- 1 市役所防災担当課との連携、市からの協力
 - ・全校生徒に防災備蓄倉庫内の備品の紹介、使い方の実演
 - ・市から備蓄期限間近の非常食の提供、生徒家族で試食2回
- 2 自分に身近なこととして考える
 - ・自分の通学路で水害の危険のある箇所を考える。
 - ・学校が避難場所になったとき、使える物・使い方を考える。
- 3 理科室：手回し発電機、調理室：食器、武道場：畳 など
 - ・理科：1年地震、2年水害、3年発電・気候変動
 - ・技術：電気コードの作成、LEDライトの作成 など
- 4 地域との連携強化
 - ・同窓会、学校運営協議会への取組紹介と情報提供の依頼
 - ・非常時の学校施設利用図の配布、非常伝言板等の紹介



【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

- ・校内だけで完結していた訓練の視野が広がった。
- ・外に発信することで、学校の防災・減災の取組に対する保護者・地域・市役所の理解が深まった。
- ・地域からの期待・関心があることが分かり、協力姿勢が一層向上した。

＜参加者等から見た効果＞

- 1 生徒 備蓄倉庫内の備品を初めて知った。自分のできそうなことに気付いた。
- 2 保護者 非常食について知ることができ、家庭でもその必要性について考えるようになった。
- 3 地域の方々 とても大事な取組だ。会の代表として考えたい。

命を守るための防災研究 ～地域との連携を通して～

【活動内容の特徴】

行政や地域団体との連携

・福祉課や町づくり協議会等の団体と連携を図りながら、障がいをもつ子どもたちへの理解を促す活動や災害時の避難対応の研究に努めている。

【団体の紹介】

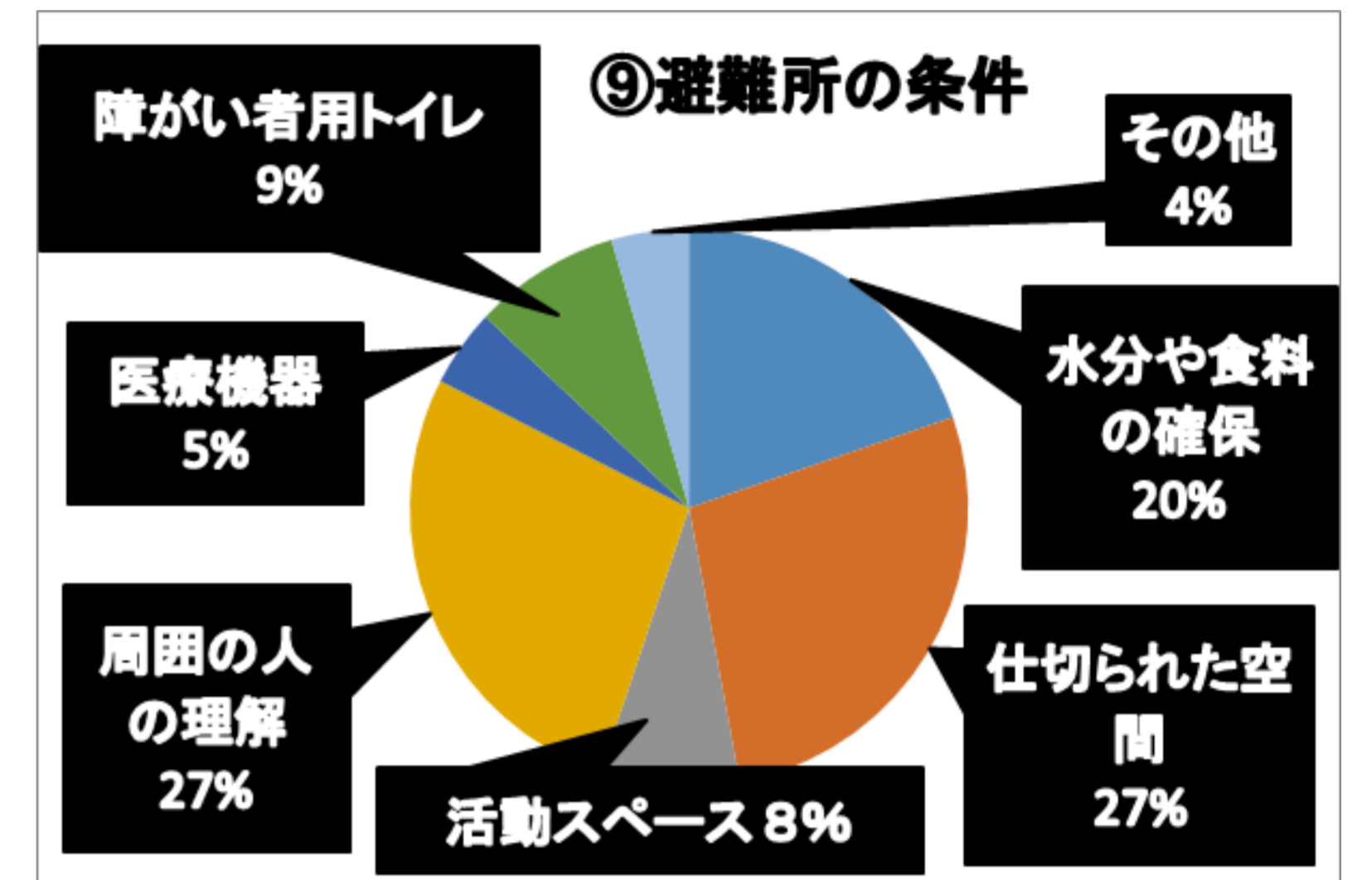
団体紹介を一言で

・本校（知的障がい、127名）
・高山日赤分校（病弱、肢体、12名）
本校は山間部の静かな場所に位置し、分校は高山赤十字病院に隣接する街中に位置している。

【アピールしたい防災活動の成果】

「いのちを守るアンケート」を高山市福祉課と協力して作成し、障がいのある児童生徒の避難の実際を調査。

・避難の必要性を感じながらも、避難所での生活、災害時の子どもの不安定な状態、避難所での周囲の方への気遣いなど、様々な不安要素から**避難を選択することが難しい状況にある**ことが分かった。



【活動内容の詳細】

①居住地ごとのグループワーク

行政・学校・家庭それぞれの課題が明確に

行政	家庭の事情に応じた過ごし方ができる避難所の整備
学校	災害時、早期の家庭への連絡 (避難準備を家庭で整えるため)
家庭	近所との関わり作り (関わる中での障がい児・者を知ってもらう)

②避難シミュレーション

地域資源と連携した支援体制づくりの重要性

- 民生委員 → 児童生徒の実態を知ってもらう
→ それぞれの居住地での支援へつなげる
- 医療機関 → 緊急時の医療ケアの相談
→ 被災時の生命維持へつなげる
- 地域企業 → 物資供給の協定
→ 行政に頼らない物資の確保

③地域活動を通じた障がい児への理解啓発

町づくり協議会主催の地域イベントに参加！

→ 子どもと保護者が楽しみながら地域の方と交流
今年で3年目！



【活動成果】

<実施者から見た効果>

・家庭、地域でできる災害準備の内容が明確になり、**家庭では子どもの障がいへの配慮**を主とし、地域では、高齢者・障がい者など**避難が難しい方も含めた避難訓練**や**地域資源の活用**を取組み目標として見つけることができ、**避難するために必要となる行政への要求**内容も明確になった。

<参加者等から見た効果>

・自分自身の災害時の判断や行動を振り返り、避難の判断基準や避難行動につながる地域での協力関係作りの方法を知ることができた。今回の災害への対応は主に台風**地震ではインフラも含めた災害規模が予想できない**。災害の種類に応じた検討が必要だと感じた。まずは**自分が危機意識を持つ**ようにしたい。

菅田地区400世帯の安心・安全を目指して

【活動内容の特徴】

防災活動は11名の防災士を中心に

下呂市の金山町菅田地区は11の町内会で構成されている。高齢化が進み、若者がほとんどいない集落もあるため、当会では活動の一環として**菅田地区全体の防災活動**も行っている。現在、会員の中での防災士は11名となった。

【アピールしたい防災活動の成果】

地域の防災活動を継続。今年度は「非常時持出袋」の普及

当会では今まで学校や町内会での防災教室やDIG訓練、広報紙での防災啓発、「我が家の防災表」の作成と配布などを行ってきた。今年度は、起こりうる自然災害への備えとして「**非常時持出袋**」の普及に向けての取り組みを実施した。

【活動内容の詳細】

非常時持出袋の試作品作成。希望者に原価で提供（150個）

平成30年7月以降、菅田地区は豪雨や台風に見舞われ、初めて避難所の利用があった。その時50人ほどの住民が避難したものの、そのほとんどが何も持たない「**手ぶら**」での避難だった。

ここ数年、防災訓練などには会員の防災士が各町内会へ出向き、**非常時持出袋の必要性を呼び掛けていたが**、住民からの「**どこで買えばいいのか？**」「**何を揃えればいいのか分からない**」という声も多く聞かれていた。当会では今年度の活動として、防災士と企画委員会が中心となり、**試作品の作成**を行うこととした。

防災グッズのリストアップや選定など試行錯誤を繰り返した末に、目標とした**3,000円以内**で充実した内容のものが出来上がった。11月の防災訓練では、各町内会において資料とこの試作品で避難時に必要な物品等について説明し、また**希望する方には袋を原価（3,000円）で提供**することとした。（150個希望あり）

後日、使い方や注意点などを会員が直接説明しながら持出袋を配布した。今後も全戸配備を目指し働きかけを継続したい。

【活動成果】

<実施者から見た効果>

- ・災害に対する備えの重要性について、持出袋を直接手渡す際の会話からも**住民意識の高まり**を感じられた。また、袋の希望数が150個と想定した以上の数で驚いた。
- ・菅田地区以外の方や市外の防災リーダーからも問い合わせがあるなど、**他地域への広がり**も見せている。

【団体の紹介】

地域の“元気”を創造します。

会員は28名（男18・女11）で年齢もまちまち。「**この地域を少しでも元気にしたい**」という思いで活動を行っている。広報紙発行、ホタルの保護、イベント開催、奉仕活動など。



<参加者等から見た効果>

- ・非常時持出袋の必要性は理解しているものの、市販品の購入をためらっていたという家庭にも配備することができた。
- ・「個人ではなかなか揃えられないグッズが入っているので助かった」「**手ごろな金額**だったので、**家族の人数分用意**できた」との声をいただいた。

地震への備え（家具の固定）をしよう

【活動内容の特徴】

全会員で家具の固定を達成しよう。

1. 家具の固定をして自分の命は自分で守る。
2. 地域との交流を自ら深めて、共に助け合う。
3. 継続して防災の勉強会を実施。

【団体の紹介】

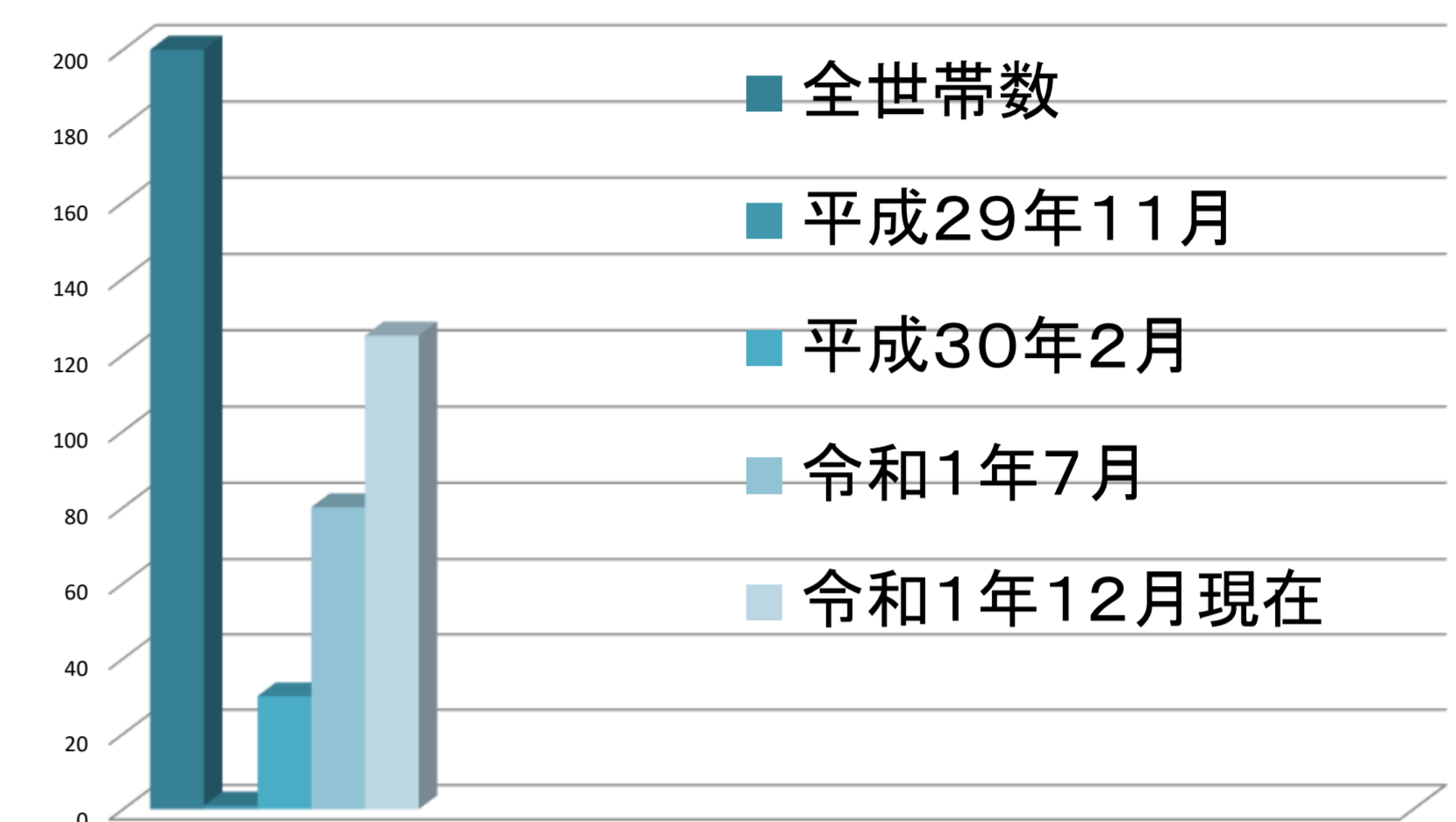
山の北斜面にある団地で世帯数は198世帯、山県市で3番目になります。今年で自治会創立50年を迎え現在小学生22人、人口500人ほどの自治会です。

【アピールしたい防災活動の成果】

家具の固定60%以上達成間近！

- ・防災活動に自治会員のほとんどが耳を傾けて協力してくれた。防災活動だけでなく行事の参加数も増え自治会員の自助共助の意識の高まりを感じる。
- ・家具固定済79軒、近々やる前向きな46軒を入れると125軒となる。

家具の固定進捗状況



【活動内容の詳細】

防災をみんなで考える！勉強会と訓練の継続実施

1. 防災講座 第1回 平成29年11月実施（机上）
2回 30年 2月実施（同）
3回 7月実施（同）
4回 令和2年 2月実施予定

これまでの参加した住民 198軒中60名
訓練内容：非常食作り、DIG訓練、非常時のトイレ、避難所でのベッド作り、新聞紙の利用グッズ、ペットの扱い方、最近の被災地の話など

2. 避難訓練 令和1年9月22日実施⇒住民198軒、参加190名

組ごとに想定される災害を考える。
避難ルート、場所をシミュレーション、近所声掛け

3. 家具転倒防止の推進、全家庭目標に推進中。
（平成30年11月17日～）
4. 勉強会はアンケートにより住民の選択項目を優先。



【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

【活動成果】

- ・住民の意識は変わり、訓練参加者が増えている。

・長年動きの鈍かった自主防災組織が自治会への協力に加え、独自の防災講座を積極的に実施する傾向がみられるようになった。

- ・講座の合間に行う集いなどに年齢間の偏りなく顔出しが見られ、防災を通じて自治会員の親密感、連帯意識がより高揚してきた。

・防災活動活性化運動は将来問題となる孤独死問題の解決の糸口にもなると考える。

＜参加者等から見た効果＞

- ・自分の地域に関する事で話が出来た。
- ・地図の中で危険な場所が良くわかった。
- ・皆さんの意見と参考になる話が聞けた。
- ・家にいる時間が少ない者（無関心）には分からない事ばかり。皆が共通の意識を持てるかの話合いの場が必要と感じた。
- ・自分がこれまで無関心だった事が良く分かった。
- ・災害の危険だった場所を若い人たちに伝えられたので良かった。
- ・何度も聞くことが大切。
- ・防災を考えるともっと助け合えるよう繋がりが必要と感じた。
- ・今まで付き合いがなかったがこれを機会に繋がるよう努力したい。

防災教育・地域連携と担い手づくり



【活動内容の特徴】

主体的な防災活動で、地域とつながる担い手づくりへ

「対話・つながり・発信」をキーワードに、学校・地域での防災活動を推進した。学校での防災教育に効果的な活動を取り入れた。中学生が地域へ出ていき、つながる活動を仕組み、実践を発信した。将来につながる種をまき、担い手を育成している。

【アピールしたい防災活動の成果】

「公民館防災講座」で、中学生ボランティアが活躍。

夏休み、公民館での防災DIG講座を企画。中学生ボランティアも参加し、住民と対話を通して地域の防災を学び合えた。班で交流後、代表として内容を発表した。運営にも携わった。後日、可児市での「げんさい楽座」前に、代表生徒が学校・地域での実践を県内へ発信した。



【活動内容の詳細】

「学校防災授業・地域連携・情報発信」で、広がる防災活動

①対話を取り入れた命を守る訓練

命を守る訓練、シェイクアウトの様子をビデオで撮ったものを生徒が見合い、**本当に命を守れるか、対話**を実践。

②防災講師との異学年(2、3年生) 合同授業

理科授業として災害(大雨)への備えを村岡先生を招き、企画。地域毎、班で**具体的な防災への備えや行動を対話**し、地図上で確認。

③御嵩町防災訓練への参加

中学生が、簡易担架や救急救命法の指導支援を、地域の住民や小学生に教え、伝えるなど**防災ボランティアとして大活躍**。

④上之郷公民館 防災講座

公民館、町防災課、防災士・塾生と連携して、DIGを企画・運営。小学生～70代が参加して、中学生支援のもと**地域の防災連携を強化**。

⑤げんさい楽座 前講座

生徒代表が、プレゼンにより、これまでの実践を**県、地区へ発信**。

⑥ぼうさいこくたい2019 nagoya

2日間、全国からの来場者に、これまでの実践を**全国へ発信**。



【活動成果】

<実施者から見た効果>

- 中学生が、防災・減災について、自分ごととして捉え、**主体的に地域に関わり、つながりをつくれた**。
- 学校での防災教育をもとに、**地域への防災ボランティア意識が高まった**。
- 中学生の活躍で**地域住民の防災意識**も高めることができた。

<参加者等から見た効果>

- 地域へ中学生が積極的に活動に出かけることで、**顔の見える関係**ができた。
- 公民館DIG講座の交流では、中学生の意見が新鮮で、大人のみで行う場合と**違うアイデアや効果を得られた**。
- 全国や県へ向けての情報発信により、**双方向の交流や支援**につながった。

自分の町が好き！という思いが具現化

【活動内容の特徴】

思ったことは口に出す、そして具体的な行動へ

小中学校や老人クラブへの防災教育、町のイベントでの防災ブース出展など、メンバーは様々なアイデアを出し、具体的な行動に繋げてきた。毎月の町内巡視は12回を超えた。また、一人の発言から**町内という枠を飛び越えたご縁**に至ることも。

【アピールしたい防災活動の成果】

毎月の町内巡視と、「災害アーカイブぎふ」への繋がり

- ・ 現地を歩いて直接肌で感じる。巡視活動による気付きは大きい。
- ・ 県内で災害アーカイブを構築し、更に地域での活用手法を探る岐阜大と東北大の共同研究に発展。いわゆる民間主導で、大きな災害が起きる前のアーカイブ構築というのは全国的にも珍しい。



【活動内容の詳細】

現場主義！ & 岐阜県の災害の記録を後世に残したい！

- ・ 「行政が作ったハザードマップと現地を照らし合わせよう」という発案から巡視を開始。**とにかく現場に行き、直接見る、肌で感じる**。時には、マップに載っていない箇所を町に報告したり、交通安全の視点も加えたり。資料をまとめ、町長まで報告。
- ・ 中学校の防災授業で、50年前に我が町でも大きな被害を出した8.17水害について尋ねたところ・・・
なんと、知っていると答えたのは**クラスでたった1名！**
「過去の災害記録をきちんと残し、後世に伝えたい！」というメンバーの強い思いは、岐阜大と東北大の共同研究にまで発展した。町内に眠る8.17水害の資料を整理、デジタル化、町の予算で記録冊子にまとめた。防災フェアでは写真展を開催した。また、過去の災害データを用いたWSを開催。過去の写真は場所を特定し、同地点の現在の写真も用意した。当時災害支援に関わったお年寄りから中学生までの参加を得、活発な意見交流ができた。



昭和43年8月17日
川辺町水害災害記録冊子



天災は忘れた頃にやってくる!!

かわべ防災の会 川辺町



【活動成果】

<実施者から見た効果>

- ・ 巡視によるメンバー自身の気付きは大きい。
- ・ WSでは、主催者が初めて聞く話も多く引き出せ、貴重な時間となった。また防災フェアの写真展でも、当時を知るお年寄りが生き生きと語り、何時間も写真の前で過ごす姿が見られ、この取り組みの意義を深く感じた。
- ・ 町や社協と協働という意識、関係の深まり。

<参加者等から見た効果>

- ・ 当時の様子を知る住民から直接話を聞き、災害が身近に感じられた。遺体捜索に関わった人、当時は子供で、喜んで釣りをしていたが、後から魚を捨てた人、色んな立場の経験が聞けて、すごく良かった。自分の町に今災害が起きたら、ということ想像することができた。

女性へのAED装着率を上げたい！

【活動内容の特徴】

自分達で考え、創意工夫する

消防団の広報・啓発の担当として、消防操法大会での来場者向けブース運営や、応急手当の普及啓発を行う中で、各団員は、日頃より自ら情報収集し、学び、意見を出し合い、より伝わる、より喜んでいただける工夫を重ねています。

【アピールしたい防災活動の成果】

想像力に働きかける応急手当講習（進化途中）

「もし、倒れているのが女性だったら」「あなたの大切な家族だったら・・・」と、通常の訓練用人形ではそこまで想像しにくい状況を、女性の人形を用いることで、今までよりももっとリアルに想像してもらえようような講習会にしています。

【活動内容の詳細】

よりリアルに想像してもらえる応急手当講習にするために

団員A、女性へのAEDの装着率の低さについて知る。

「**これは何とかしたい！！**」

「そういえば、訓練用の人間は皆男性。服も着ていない・・・」



女性人形を作ろう！！（訓練用人形に装飾）

団員Aは手のマネキン、足のマネキン、そしてお尻を買い・・・



定例会で団員同士で、検討する。「倒れているのが女性だったら？」「実際にどうやってAEDパッドを貼る？」「服は下着も含めて全部脱がす？」「周囲の人にどう協力を求めるか」

・・・すると、自分たちも含め、思い込みがあることが分かる。

「**皆さ～ん、上半身は全て脱がさなくてもいいですよ！！**」



市民向け応急手当講習で、女性人形を活用する。

受講者にはアンケート（記入式や挙手式）を実施し、意識付け。

【活動成果】

<実施者から見た効果>

- ・ やってみて納得。目からウロコ服の切り方
- ・ 女性に限らずあらゆる人への配慮に発展。
- ・ もっと自信を持って万が一の際の救命行為を行えると言えるようになった。
- ・ 身近な人など、多くの場でこのことを話題にするようになった。
- ・ 冬の服装だったら、など更に議論も発展中。

<参加者等から見た効果>

- ・ 自然に印象に残り、話題になる。
- ・ 思い込みがあったと気づく参加者が多い。
- ・ 意識の変化（方法が分かった。自分にできることがある）
- ・ 想像力の拡大。実際に倒れている人を想像しやすい。

消防団の中で、広報・啓発を担当

地域のために何かしたいと志願しました。年齢、職種も多様で、子育て中のメンバーが多いことも特徴。受け身ではなく、できることを見つけて自ら動きます。現在14名。

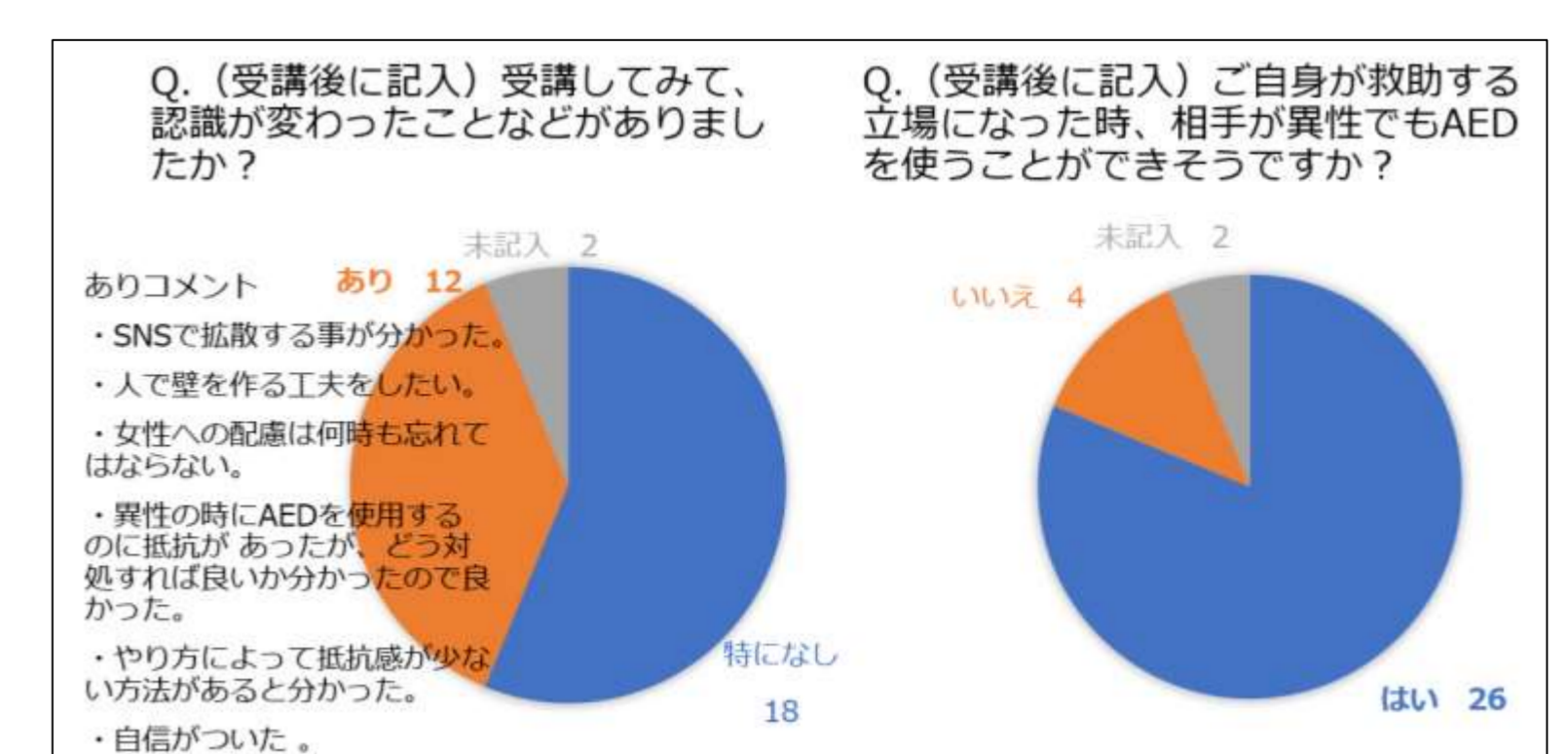


学校で子どもが心停止した時、AEDが使われたか？

男子高校生 83.2%

女子高校生 55.6%

（京都大学 石見拓教授らの調査より）



防災意識の向上を目指した 命を守る訓練の充実と、地域と協力した防災教育

【活動内容の特徴】

型通りの訓練から、地域と協力した防災教育へ

同じ想定で型通りの命を守る訓練を実施してきた。専門家から直接助言を受ける場を設定し、その内容をテコに職員の意識改革に取り組んだ。その結果、多様で実際的な訓練に改善されたと共に、地域の防災組織と協力した防災教育の充実にまで発展した。

【団体の紹介】

岐阜市北部の公立小学校

全校約550人、職員数約40人の小学校である。かつて斎藤道三の隠居所の城があったとされる鷺山(68m)が隣接するため、校地の一部は土砂災害警戒区域に指定されている。

【アピールしたい防災活動の成果】

より多様な想定で！より実際的な訓練を！

多くの学校で給食室からの出火を想定して訓練をしている。ところが、肝心の調理員さんたちが火災発生の通報や、消火器の操作を学ぶ機会がない。このように現実離れした想定や訓練内容を全面的に見直し、児童だけでなく職員の防災意識の向上につなげた。



【活動内容の詳細】

■全員が安全に避難できない場合も発生します！

万が一を想定し、担架の場所と操作法の講習、行方不明者の搜索手順の確認講習、搜索と担架での運び出し訓練と、命を守る訓練と重ねて職員研修を行ってきた。回数を重ねることで動きがスムーズになり、マニュアルがなくても連携した動きにつながった。



■登下校中など大人がいないときでも災害は起きます！

5年生を対象にDIG訓練を実施している。地区ごとにグループを作り、親子で危険箇所や防災資源の確認をしている。従来は消防署など外部の講師に頼っていたが、DIGのねらいや進め方の手引きを確立したことで、職員自らが指導できるようになった。



■地域の方々も防災の活動に真剣に取り組んでいます！

6年生の防災学習では、鷺山の消防団、水防団、女性防火クラブの方々に協力をお願いした。組織や活動内容の説明後、放水や土嚢作りの体験、炊き出しの試食をさせていただいた。いざという時に、地域ではどんな組織がどのように活動するか知ることができた。



【活動成果】

<実施者から見た効果>

幸いにも岐阜市近辺では大きな災害が起きておらず、災害の経験がある職員はほとんどいない。そのため、防災への必要感や緊迫感が不足している面は否めない。今回、専門家から助言をいただく機会をきっかけに、従来からの計画や指導内容の見直しと共に、地域と連携した防災教育に発展することができた。

<参加者等から見た効果>

地震発生後にいつも給食室から出火するが、運動場へ全員が無事に避難完了する。こんな同じパターンで訓練は進められていた。現実はずっと複雑で予期せぬことが起きるはず。ニュース等で災害の恐ろしさは感じていたが、具体的に自分は何をすべきか、何を教えておくべきか、深く考えるきっかけとなった。

地域全員で学ぶ防災！強い街づくり！

【活動内容の特徴】

地域防災力向上 地域全体で学ぶ防災

地域の防災力向上を目標に、地域全員が学べる防災訓練を実施しています。「特定の人々が地域の防災訓練を見に行く」のではなく、「防災に関する体験を通して地域全員が楽しんで参加でき、身になる防災を勉強する事ができる**イベント型防災訓練**」です。

【アピールしたい防災活動の成果】

防災訓練を通して、お互いの顔が見える地域づくりに貢献

42自治会・スタッフ延べ800人が参加。普段顔を合わせない住民同士が自治会毎にまとまって避難誘導訓練を行ったり、防災体験ブースを回ることにより、地域内の危険箇所の再確認や防災意識の向上、そして**お互いの顔が見える地域づくり**ができた。



【活動内容の詳細】

リアルに体験、学べるイベント型防災訓練学習

「地域の防災訓練を見に参加」するのではなく「**実際に自分で体験して学ぶ、体験型防災訓練**」のコンセプトで、参加者や対象者を特定せず、地域の人全員が誰でも楽しんで参加出来る**イベント型防災訓練**とした。

会場内に、防災体験ブースを21箇所設け、スタンプラリー形式で参加者全員に各ブースを体験してもらった。

リアカーの体験、マンホールトイレ、炊き出しカレー、水道局の給水タンク車試飲、発電機を始動するなどのブースを配置。さらに今回地域のカーディーラー2社に協力頂き、水素・電気自動車から電気を取り出し、実際に電化製品を使用したり充電するデモも実施。普段何気なく使っている、自家用車、トイレ、食料・水や電気のありがたみもリアルに体感することができた。

鶉小学校の校舎配置図をプリントし、小学校が避難所となったとき、どの部屋に避難し、その避難所では何の仕事をするのか各自が決めるというブースも設置し、避難所運営の難しさも体感した。



【活動成果】

<実施者から見た効果>

地域の避難訓練はただ参加するだけという雰囲気があった。体験型訓練は面白そうだし楽しそう、子ども達が参加するから大人も一緒に参加するなど、**参加者の相乗増加効果**が得られた。また、参加することで防災意識の向上、並びに地域同士の横のつながりが出来、**安心安全なまちづくりに貢献**できた。

<参加者等から見た効果>

普通の防災訓練は側から見ていただけの訓練が多いが、ここでは実際に体感することで、学ぶことが多く防災に対する意識が向上した。また、実際に災害が起きた時に途絶えるライフラインの重要性を体感し、現状の自宅で何日間暮らせるかなど、**自宅の防災減災**について再確認の必要がある事に気づかされた。

親子で防災体験 3年目

【活動内容の特徴】

1～6年全校が親子で防災体験

土曜日の授業参観において、1～6年全校が親子で各種の防災、減災体験学習を行う取組が、今年で3年目を迎えました。毎年少しずつ内容を変えて体験を重ねてきた結果、卒業時にはミニ防災博士になりたいと考えています。

【アピールしたい防災活動の成果】

3年目を迎え保護者の意識も前向きに

3年目を迎えて保護者の意識も前向きになってきました。「もっと高いレベルの体験を」、さらに「毎年継続してほしい」等の声が聞こえてくる。単なる説明や演示だけではなく、実際にその器具や施設を活用しての親子体験を求める声が強くなりました。

【活動内容の詳細】

地域の協力を得て3年間で15種類を超える親子体験を実践

・写真上は、地域の婦人消防団の方の指導の下、親子で水消火器による消火体験を行う低学年児童です。他に低学年は、消防署の方の指導で煙の疑似体験、シェイクアウト（ダンゴムシ）の正しい姿勢、壊れた建物内の望ましい避難の仕方等を学びました。

・写真中は、安八町の防災士の方の指導を受けて、災害発生時の非常用トイレとその付属テントを親子で組み立てて疑似体験する中学年児童です。他に中学年は、非常時給水タンク（セーフティタワー）の使い方体験、緊急時にガスエアコンタンクを活用した調理体験、災害対策車両の乗車体験等で学びました。

・写真下は、安八町の防災士の方と段ボール製品メーカーの方の協力の下、親子で避難所での簡易ベッド体験をし、さらに一家族に割り当てられる狭さを実感する高学年児童です。他に、本物の消防ホースによる消火体験、避難持ち出し品体験等で学びました。

【活動成果】

＜実施者から見た効果＞

- ・各種の防災、減災に関わる体験を親子で行うことで、家庭でも話題になり、教室内の学習からの広まり、深まりが期待できる。
- ・学校のみならず家庭や自治体を巻き込んでいくことで、地域ぐるみの活動に発展しさらに効果があがる。

【団体紹介】

大水害に遭った安八町の小学校

今から43年前の1976年9月12日に長良川の堤防が切れ、大水害に遭った安八町内で、50cm程の浸水被害があった学校です。



＜参加者等から見た効果＞

- ・普段体験できない内容（避難所体験や非常用トイレ）であり、最近では災害も多いので貴重な体験ができた。
- ・防災の意識を高めるためにも毎年変化をつけて続けてほしい。
- ・防災を通して、学校、保護者、町、関係機関の連携の大切さを知るよい機会である。